

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成20年11月20日(2008.11.20)

【公開番号】特開2007-216051(P2007-216051A)

【公開日】平成19年8月30日(2007.8.30)

【年通号数】公開・登録公報2007-033

【出願番号】特願2007-120850(P2007-120850)

【国際特許分類】

A 6 1 H 5/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 H 5/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成20年10月2日(2008.10.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

装置の他の手段からのデータを記録、記憶、処理、発信するための中央データ処理手段と、

少なくとも一つの視覚刺激表示手段と、

人の視線を固定させる視線固定点手段と、

知覚された視覚刺激に対する人の反応を入力する手段と、

知覚された視覚刺激に対する人の反応の状態に合わせて、前記少なくとも一つの視覚刺激表示手段を制御する手段とを備え、

人の視覚系内の視力劣化または残留視覚機能または部分視覚系損傷のゾーンである遷移ゾーンの位置を見つけて特定し、

前記遷移ゾーン内にあるトレーニング領域を特定し、

人の視覚系に対して光刺激を与えることで人の視覚系を訓練し、その際、前記光刺激の大部分が、前記遷移ゾーンの中かその近くに与えられるように構成された、人間の視覚系または視力を訓練するための装置。

【請求項2】

人の頭を固定および/または支持する手段をさらに含む請求項1に記載の装置。

【請求項3】

前記視覚刺激表示手段が光発信手段である請求項1または2に記載の装置。

【請求項4】

前記視覚刺激表示手段が、様々な色、明るさ、強さまたは形状の光を発する光発信手段である請求項3に記載の装置。

【請求項5】

前記視覚刺激表示手段がコンピュータースクリーン、ビデオスクリーン、投影スクリーンまたはバーチャルリアリティゴーグルもしくはヘルメットのようなビジュアル投影装置である請求項1～4のいずれかに記載の装置。

【請求項6】

人の視線を固定させる前記視線固定点手段が、目印である請求項1～5のいずれかに記載の装置。

【請求項7】

人の視線を固定させる前記視線固定点手段が、色のついた目印であり、人の視線の角度を制御するために色の変更が可能である請求項 6 に記載の装置。

【請求項 8】

前記制御手段が、前記光学刺激に対する人の反応の質に合わせて前記少なくとも一つの光学刺激表示手段を制御できる請求項 1 ~ 7 のいずれかに記載の装置。

【請求項 9】

人の視覚系の特性変化を記録する工程と、
前記変化に応じて、刺激表示の位置と特定とを前記遷移ゾーンに適応させる工程と、
以上の工程を継続的に繰り返すことにより、その人の前記無傷視野を前記遷移ゾーン内に広げ、さらに前記遷移ゾーンをより視力が劣化したゾーン内または残留視覚機能の少ないゾーンまたは実質的な完全視覚系損傷のゾーン内に広げる工程の実施を可能にする請求項 1 ~ 8 のいずれかに記載の装置。